



サンマ

北太平洋系群

主な漁業と漁期

棒受網: 8~12月

定置網: 10月~1月

生態

サンマは落語「目黒のさんま」に取り上げられたり、佐藤春夫の詩で「さんま苦いか塩っぱいか」とうたわれるなど秋の味覚で有名な魚です。

●分布・回遊

寒帯域と熱帯域を除く北太平洋に広く分布しています。春~夏季に北上回遊して索餌し、秋~冬季に南下回遊して産卵します。

●産卵期・産卵場

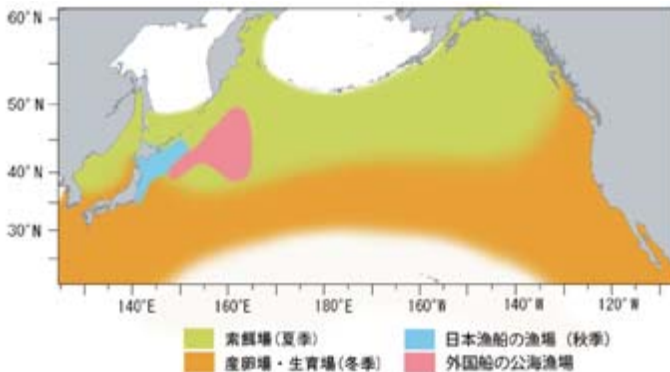
産卵期は周年に亘りますが、中心は9月から翌年6月までです。

産卵場は沿岸から沖合の広い範囲ですが、主に秋季及び春季は東北のはるか沖合いに位置する黒潮親潮移行域、冬季は同様な黒潮統流域で産卵が行われます。

●成長・成熟

寿命は2歳です。一般的な漁獲サイズである30cmに達するまで約1年かかります。

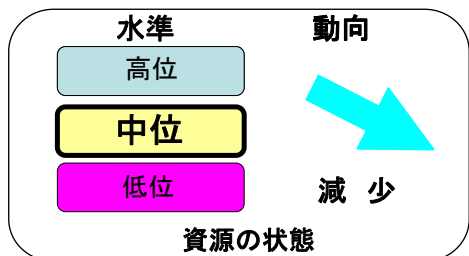
0歳で一部が成熟し、1歳ですべてが成熟します。



サンマ北太平洋系群の分布域(索餌場と産卵・生育場)と日本漁船及び航海における外国漁船の主漁場位置(水産総合研究センターの資源評価ダイジェスト版より引用)

漁業・資源動向

【資源】



- 2016年以降、北太平洋のサンマは高度回遊性魚類として国際機関による資源管理の対象魚種になっています。
- 2015年の日本のサンマ漁獲量は、11.2万トンで世界全体の漁獲量(35.4万トン)の32%を占めています。
- 日本の調査船による調査結果及び日本漁船の漁獲情報によれば、資源水準は中位で資源動向は減少傾向にあると判断されています。
- 日本における資源管理措置として、漁業許可制度、操業期間の設定、TAC制度等が行われています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

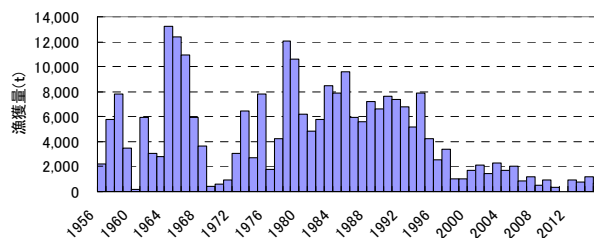
ダイジェスト版

http://kokushi.fra.go.jp/H28/H28_74S.html

詳細版

http://kokushi.fra.go.jp/H28/H28_74.html

- 秋から冬に南下してくるサンマを狙う棒受網漁業は、8月には北海道道東沖~千島列島沖の漁場で操業し、徐々に南下して9月下旬~10月上旬に三陸沖、11~12月には常磐~房総沖で操業します。この海域に出漁する静岡県の棒受網船は最盛期には50~100隻程度ありましたが、現在は1~2隻となってしまいました。2008~2015年の漁獲量は25~1,200トン(2015年は713トン)です。
- 伊豆東岸の定置網には伊豆半島まで南下回遊してきたサンマが秋から冬にまとまって入網します。年平均漁獲量は50トン程度です。
- 県内の漁獲量は1996年以降減少していますが、これは棒受網船の減少によるものと考えられます。



静岡県サンマ漁獲量(農林水産統計)

担当者の一言: 伊豆地方では南下してきたサンマを使った丸干しやサンマ寿司が名物です。

問合せ先

静岡県水産技術研究所資源海洋科 054-627-1817